

令和元年度 第2回全体庁議（5月17日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(2) 十勝定住自立圏次期共生ビジョンの策定について [政策推進部]
----	-------	--------------	---------------------------------------

■ 提案・報告の趣旨

十勝定住自立圏共生ビジョンの計画期間が今年度までであることから、次期ビジョンの策定に向けて、検討の視点、スケジュールなどの整理を行い、令和元年5月31日の総務委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1 概要

定住自立圏構想は、圏域の中心的な役割を担う中心市と近隣町村が、それぞれの魅力を活かしながら、相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する自治体間連携の取り組みである。

○主な経過

- H22.12.15 帯広市が中心市宣言を実施
- H23. 7. 7 帯広市と18町村の間でそれぞれ協定を締結
- H23. 9.30 十勝定住自立圏共生ビジョンを策定(19項目)
- H28. 3.31 第2期十勝定住自立圏共生ビジョンを策定(24項目)

2 これまでの成果等

第2期共生ビジョンでは、取組項目に「基本目標兼成果指標」を設定し、平成28年度から毎年度、進捗管理を行っており、平成30年度までに24項目中16項目で順調に進捗してきている。  
こうした取り組みを通して、圏域の人口は比較的堅調に推移してきており、唯一増加した石狩を除き、人口減少率は道内で最低であり、2045年の人口推計でも札幌圏に次ぐ低さとなっている。また、定住自立圏の枠組みは、個々の取り組みの推進に加え、19市町村が地域課題について幅広く協議する場としても機能してきている。

3 次期共生ビジョン策定の視点

計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間とし、次の視点で検討を進める。

- ・定住自立圏の目的である圏域全体の活性化や、人口の定住に果たす効果、市町村の連携の在り方などの観点から検討を行い、改善や廃止を含めた必要な見直しを進める。
- ・全市町村で実施する項目に加え、帯広市と特定町村のみが連携して実施する項目も検討する。
- ・少子高齢化、人生100年時代、安心して暮らせる生活環境の確保など、社会情勢の変化や圏域の課題を踏まえ検討する。

■ 今後のスケジュール

令和元年度内の策定を目指し作業を進める。

- ・令和元年5月31日 総務委員会へ報告
- ・令和元年6月～ 骨子検討
- ・令和元年8月～ 原案検討
- ・令和元年12月～ パブリックコメント実施
- ・令和2年1月 最終案検討
- ・令和2年3月 協定変更、次期ビジョンの策定

※この間、適宜、所管委員会等で報告を行う。

■ 審議結果

- ・同内容で、5月31日総務委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

- ・特になし